

## 臨時休業に伴う学習の状況について

学びの改革支援課  
特別支援教育課

### 1 学習進捗の様子

休業なく9月末まで登校できていた時の通常の学習進捗を100%とした場合、9月末までに実際に学習できた進捗

※（ ）は7月末の状況

| 校 種               | 小学校<br>356校    | 中学校<br>186校    | 高等学校<br>82校    |
|-------------------|----------------|----------------|----------------|
| 全県平均 (%)          | 90.5<br>(82.5) | 90.6<br>(82.1) | 90.5<br>(77.7) |
| 90%以上進めることができた学校数 | 301校 85%       | 155校 83%       | 68校 83%        |

※小学校は、平均でおよそ1.8週（52時間程度）の遅れ

※中学校は、平均でおよそ1.8週（52時間程度）の遅れ

※高等学校は、平均でおよそ1.8週（53時間程度）の遅れ

### 2 修学旅行の状況

※（ ）の%は実施校に対する割合

| 校 種                     | 小学校<br>356校<br>(実施353校) | 中学校<br>186校<br>(実施186校) | 高等学校<br>82校<br>(実施76校) | 特別支援学校<br>19校<br>(実施73団体) |
|-------------------------|-------------------------|-------------------------|------------------------|---------------------------|
| (1) すでに実施した学校           | 28<br>(7.9%)            | 15<br>(8.1%)            | 1<br>(1.3%)            | 1<br>(1.4%)               |
| (2) 中止と決めた学校            | 5<br>(1.4%)             | 28<br>(15.0%)           | 30<br>(39.5%)          | 12<br>(16.4%)             |
| (3) 今後実施予定の学校           | 302<br>(85.6%)          | 129<br>(69.4%)          | 28<br>(36.8%)          | 59<br>(80.8%)             |
| * 行先を県内に変更した学校          | 229校                    | 92校                     | 4校                     | 53団体                      |
| (4) 実施可否、実施日・行先等を検討中の学校 | 18<br>(5.1%)            | 14<br>(7.5%)            | 17<br>(22.4%)          | 1<br>(1.4%)               |

# 臨時休業中に行ったオンライン授業の成果を生かした 日常的なICT活用

伊那養護学校

伊那養護学校では、臨時休業中にオンラインでの授業を行い「学びの継続」に取り組みました。分散登校、通常登校が始まってからも、その取組を生かして各部、各学級で動画を利用した授業、他校の友だちとのオンライン交流会等、ICTを活用した授業づくりに取り組んでいます。

## 臨時休業中のオンライン授業の様子

### 重度重複グループ（朝の会）

- 基本的な生活習慣やより良い人間関係の形成を目的として、「朝の会」を行っています。
- 休校中は、各家庭と学校を毎朝Zoomでつなぎ、朝の挨拶、健康観察、リズム運動等、朝の会を行いました。
- 普段は月に数回の登校日しか顔を合わせない友だちもありますが、Zoomだと毎日顔を見て声を聞くことができます。繰り返すうちに、友だちの顔と声を覚え、呼びかけに笑顔を見せるようになりました。

### 高等部（生徒会活動）

- 集団活動の経験を積み、自発的自治的な活動を展開する力を育むため生徒会活動を行っています。
- 高等部では、学校再開後に生徒会活動として「学校クイズ大会」を行いたいという生徒の願いに基づき、Zoomを使って生徒会本部役員会を行い、準備を進めました。
- Zoomで話し合いをすることで、学校ではコミュニケーションが苦手な生徒も、自分の考えを伝えることができました。

職員研修の様子



Zoomによる朝の会



Zoomによる役員会



動画撮影の様子



動画による個別学習



## 学校再開後にICTを活用した授業の様子

### 高等部（個別学習 音楽）

- 個別の指導計画に基づき、一人ひとりの実態に応じて個別学習を行っています。
- 歌が好きなAさんは、休校中に動画で配信されていた「先生たちが歌っている動画」を家庭でよく見ていました。
- 学校再開後の個別学習の時間には、その動画を見ながら先生と一緒に歌の練習をして自分でも歌えるようになってきました。

### 重度重複グループ（交流および共同学習）

- 地域の学校に通う同世代の友だちと共に学べる機会が拡大するように市町村で副学籍制度の導入が進んでいます。
- 副学籍校の行事など学期に数回程度の交流をしていたBさん。副学籍校に直接訪問することができなくなったため、Zoomを使って副学籍校の友だちと交流会を行いました。
- Zoomだとこれまでよりも交流をする回数が増え、日常的な交流につながっています。

Zoomによる交流



# 再び休校になったときに備えての取組

伊那養護学校

伊那養護学校では、再び休校になった場合のことを想定し、校内で「オンライン推進チーム」を編成し、保護者の理解を得ながら準備を進めています。

再び休校になったら ⇒ 一人ひとりの特性とニーズに応じた「オンライン学習計画」で学びを継続します

- ・オンライン授業は「Zoomによる授業（リアルタイム配信）」と「Web School（ホームページ上に動画をアップ）」の2種類を用意。
- ・各部のオンライン授業配信予定表をもとに保護者、本人と相談しながら、一人ひとりの実情に応じた「1週間の学習スケジュール」を作成。

## Zoomによる授業(リアルタイム配信)

### 【各学級で配信】

- ・朝の会
- ・学級の時間(学習の確認など)
- ・作業班での活動
- ・個別学習(ことば、数、図工など)
- ・部集会、学年集会(音楽、運動、各種行事)
- ・帰りの会



## Web School (HPに動画をアップ)

### 【各部・分教室・寄宿舍で動画作成】

- ・ダンス、歌
- ・身体づくり
- ・読み聞かせ
- ・ものづくり
- ・言葉遊び



## 『オンライン授業 配信予定表』の作成 (重度重複グループ)

『各部のオンライン授業 配信予定表』を作成

『個々の1週間の学習スケジュール』を計画

## オンライン授業配信予定表

(重度重複グループ：つくしG)



|       | 月                | 火                | 水                | 木              | 金              |
|-------|------------------|------------------|------------------|----------------|----------------|
| 9:20  | 朝の体操             | 朝の体操             | 朝の体操             | 朝の体操           | 朝の体操           |
| 10:00 | 朝の会              | 朝の会              | 朝の会              | 朝の会            | 朝の会            |
| 10:40 | つくしの時間<br>ゲスト：校長 | つくしの時間<br>ゲスト：教頭 | つくしの時間<br>ゲスト：保健 | 個別学習①<br>個別学習② | 個別学習①<br>個別学習② |
| 11:30 | (昼食)             | (昼食)             | (昼食)             | (昼食)           | (昼食)           |
| 13:40 | 個別学習①            | 個別学習①            | 個別学習①            | つくしの時間         | つくし            |
| 14:10 | 個別学習②            | 個別学習②            | 個別学習②            | 足湯             | コンサート          |
| 14:50 | 帰りの会             | 帰りの会             | 帰りの会             | 帰りの会           | 帰りの会           |

- ・原級での授業、部集会、部の音楽等の授業、原級ランチにも参加可能
- ・授業に使う教材があれば、事前に届ける(楽器等)
- ・イベント、ゲスト参加、小・中・高の授業も追加

## 個人週予定表 (例)

つくしG 週予定表 ⇒ 個人予定表



|       | 月                | 火                | 水      | 木          | 金    |
|-------|------------------|------------------|--------|------------|------|
| 9:20  |                  |                  |        |            |      |
| 10:00 | 朝の会              | 朝の会              |        | 朝の会        |      |
| 10:40 | つくしの時間<br>ゲスト：校長 | つくしの時間<br>ゲスト：教頭 | リハビリの日 | 個別学習②      | 分散登校 |
| 11:30 | (昼食)             | (昼食)             |        | (昼食)       |      |
| 13:40 | 個別学習①            | web school       |        |            |      |
| 14:10 |                  | 身体づくり            |        | web school |      |
| 14:50 | 帰りの会             | 帰りの会             |        | 読み聞かせ      |      |

分散登校が始まると、分散登校時の日課が入ります

## Facebook ページ「学びの改革実践校」の紹介

学びの改革実践校の取組を元新聞記者の方に記事にしてもらい、Facebook に紹介しています。PC やタブレット、スマートフォンから閲覧可能です。

ブラウザで「学びの改革実践校 Facebook」と検索

「学びの改革実践校 - Home | Facebook」をクリック

閲覧可能です！

- ・アカウントをお持ちの方は、Facebook で「学びの改革実践校」と検索してください。
- ・Facebook がはじめての方も閲覧は可能です。（アカウントを作成してログインすると、閲覧がしやすくなります。）

**学びの改革実践校**  
7月16日

【学びの改革実践校紹介—南信地方①】  
飯田市立 かねえ 小学校 (全校児童681人)



鼎小は本年度、5年生の3クラスで「部分教科担任制」を取り入れました。算数、理科、音楽は専科教員が担当。英語、社会、体育は1～3組の学級担任が分担して教えています。本村栄次（ほんむら・えいじ）校長は「より多くの教員が目子どもたちを理解することで、それぞれの子どもが持つ良さや可能性を伸ばしたい」と、その狙いを説明します。

部分教科担任制とは、一部の教科に限って学年の中で担当を決め、一人の教員が複数のクラスで授業をする仕組みのことを指します。クラス替えで担任が変わった5年生で一先きに導入。2学期からは6年生でも部分教科担任制を実施することになっています。

新型コロナウイルスの影響が明けて、通常授業が始まってから1か月余。5年生の教員対象に行った聞き取り調査では、「担当する教科数が減ったことで、教材研究を充実させられるようになった」「指導が学年内で統一されて学級差が出にくい」と、好意的な受け止めが目立ちました。1学期末には、児童たちの感想も聞き取る予定です。

鼎小には学校の教育目標を実現するための「ライジングプラン」という独自の計画があり、地域や家庭と内容を共有しています。その中では、大人が子どもたちの話にきちんと耳を傾けること、子どもの長所を見つけて積極的に褒めることなどを勧めています。

5年生の学年主任の棚田祥子（たなだ・さちこ）教諭は「日頃からいろんな子どもたちと接する機会が増え、コミュニケーションが密になった」と話します。本村校長も「学年全体で子どもたちを見る雰囲気や醸成されつつある」と受け止めていました。



**学びの改革実践校**  
8月20日

【対話で深め合う授業 生徒も教員も】  
大町市立 仁科台 (にしなだい) 中学校 (全校生徒332人)

仁科台中では生徒同士の「対話」を取り入れた授業づくりに力を入れています。自分の考えを整理し友達と意見を交わすことで理解を深めることが狙いです。学校全体で授業の質を高めるためには、教員たちの対話も欠かせません。7月末には全教員対象の「校内研究会」を開き、あるべき授業の姿について認識を共有しました。

「どのような所に三大宗教ができたのか」。1年2組の生徒たちは資料集を頼りに、学習プリントの問いに自分なりの答えを書いていきます。互いの考えを発表し合った後、次の課題へ。「じゃあ、なぜ建物が必要なんだろうか」。社会科の吉澤省吾（よしざわ・しょうご）教諭の問いに対して、生徒からは「お客様の近くでお祈りしたいから」「大勢で集まって祈りたい」「吹きさらしだと神様に失礼」との意見が出されました。

生徒同士の対話を実現するには、まず、それぞれが自分の考えを持つ必要があります。そこで、吉澤教諭は「情報集めのワーク」と名付けた調べ学習の時間を授業の中で取るようにしています。同校の研究主任を務める吉澤教諭は「答えを教えるのではなく一緒に考える授業にしたい」と言います。

対話型の授業をそれぞれの教科にどう取り入れるか。校内研究会ではこの点も話題に上りました。家庭科の教員は「例えば『衣服の購入』の単元で、何を決め手に服を買うのかを生徒たちに考えてもらうことができるかもしれない」と具体例を提案していました。奥幸雄（おく・ゆきお）校長は「授業の良し悪しは子どもたちの姿に表れる。生徒も先生も対話が必要になる」と話していました。

【学びの改革実践校紹介—中信地方②】

